

主要国の2020年の温室効果ガス削減目標

先進国		削減率	基準
 日本	25%	1990年	
 米国	17%	2005年	
 欧州連合	20~30%	1990年	
 ロシア	25%	1990年	
 カナダ	20%	2006年	
途上国			排出量 05年比のGDP あたりCO ₂ P
 中国	40~45%		
 インド	20~25%	対策を取らなかつた場合に見込まれる20年時点の排出量からの削減率	
 ブラジル	36~39%		
 南アフリカ	34%		
 韓国	30%		

The Asahi Shimbun

本当に

地球は 温暖化

しているの
だろうか？

hiromum

はじめに

H市民大学の講座に情報社会・最前線というのがあり、最初の講義で「地球温暖化・・・」が取り上げられました。その時の僕の聴講レポートを基に、若干の修正と追加をして作成したのがこの本です。

1997年COP3が京都で開催され、京都議定書が策定された。その後CO2削減が叫ばれてはいるが、各国の思惑があり温暖化対策が進んでいるとは言えない。

そんな中2009年COP15がコペンハーゲンで開催され、これまた先進国と発展途上国との思惑が入り乱れ、混迷しているという印象であります。

また地球温暖化には、いろいろな説があり、CO2が必ずしもその原因とはいえないようにも思えます。

個人個人がこの問題をどうとらえたらいいのかという視点で考えてみました。

二酸化炭素が増えると地球は温暖化するのだろうか。

CO₂（二酸化炭素）が本当に地球温暖化の原因なのだろうか？

（1）極端な例として、金星はCO₂を主成分とする分厚い大気をもっていると言われています。その為表面温度は、本来なら-50℃になるところ460℃に保たれている。

（2）そうはいつでも地球の場合大気中のCO₂濃度はそれほど高くない。大気が温室効果を作っているというのは、その通りだろうが、CO₂以外の要素が高いのではないか。

（3）CO₂の増加以外にもっと大きな要因があるのではないか？

というように、僕の思考は進んでいきます。

南極などの氷が溶けるとどうなるか。

深層流といって海の底の水が静かに移動しているという。気の長い話だが、2000年ほどかけてこの深層水は地球を一周するらしい（深層流）。こういった海水の移動によって、地球の温度は安定した状態が保たれています。

しかし温暖化して南極などの氷が溶けだすと冷たい水が深層に沈む。そして塩分濃度が変わってきて、深層流に影響することが考えられる。このような変化が、温暖化とは逆の氷期になる可能性があるらしい。

過去の地球が何度かの氷期を経てきた事実はいまさらここでは説明しませんが。

だから南極の氷が溶けだすと単純に海水位が上がるという考え方と、逆に深層流の影響により氷河期が来るとも考えられるということでしょうか。

つまり一つの切り口からだけでは、真相は見えないということでしょうか？

地球の大気の主成分

大気の中で水蒸気の占める割合は大きい。

成分	化学式	体積比 /%	重量比 /%
<u>窒素</u>	N_2	78.084	75.51
<u>酸素</u>	O_2	20.946	23.01
<u>アルゴン</u>	<u>Ar</u>	00.934	01.286
<u>二酸化炭素</u>	CO_2	00.032*	00.040*

上表は水蒸気を除いた乾燥空気の主成分の割合です。

二酸化炭素は0.03~0.04%くらいです。

このように考えた時、CO₂が地球の温暖化に与える影響は、そんなに大きいように思えないのです。勿論車の排気ガスはCO₂以外にも有害物質が含まれるから、排ガス規制は大いに意味があるのですが、温暖化に限ればもっと他の要素の影響が大きいと思われてなりません。

だんだんと疑問がわいてきます。

COP15、温室ガス削減目標

下図はCOP15で話合われた結果、各国が目標とする温室効果ガスの削減率をまとめたものです（朝日新聞より）。

基準年も一定でなく、また削減率もいろいろ条件が付いていて、はっきりしません。

国民一人当たりの排出量を日本と比べると、中国は半分、インドは八分の一といわれているから、日本やアメリカが先陣を切らないとなかなか説得力はない。

主要国の2020年の温室効果ガス削減目標		
先進国	削減率	基準
 日本	25%	1990年
 米国	17%	2005年
 欧州連合	20~30%	1990年
 ロシア	25%	1990年
 カナダ	20%	2006年
途上国		排出量あたり05年比のCO ₂ P
 中国	40~45%	排出量あたり05年比のCO ₂ P 量から20年時点の削減率 た対策を取らなかつた場合に見込まれ
 インド	20~25%	
 ブラジル	36~39%	量から20年時点の削減率 た対策を取らなかつた場合に見込まれ
 南アフリカ	34%	
 韓国	30%	

炭素クレジット

京都議定書（COP3?）から話題になっていますが、要するに削減枠を超えて削減した場合クレジットが付き、削減枠に達し得なかったところとクレジットを売買できます。

この売買が国内あるいは世界的な市場をつくるということらしい。
なんとなくあやしく、不正の温床になりかねない。

メリットよりデメリットのほうが大きいと思わざるを得ません。

あとがき (まとめ)

地球温暖化の原因はCO2なのか、そうでないのか、僕には結論は出せません。

地球の平均気温は約15℃でここ100年間で最も高いが、それでも上昇は1℃に満たないという。温暖化や寒冷化は自然の力が大きく働いていると考えられます。

いまやエコや環境は科学や技術を超えて「お金になるテーマ」になってしまったのだ。CO2悪者論に安易に乗ることは出来ませんが、エネルギーの浪費削減やクリーンエネルギーへの転換は環境問題解決には欠かせない。この問題と地球温暖化を結びつけるところに無理があるように思えてなりません。

以上

10/2010 hm